

令和5年度 常総学院高等学校自己評価表

★5段階評価 A:目標が十分達成された B:ある程度の成果が見られた C:取り組んだ D:取り組んだが課題を残した E:取り組まなかった

目指す学校像	『知育・徳育・体育の円満なる人物の育成』との建学の精神に則り、「自主・誠実・創造」を校訓として掲げ、「文武両道」を基本方針とし、将来は日本及び国際社会に貢献できる人物を育て、真の意味でのエリートを輩出することを目標とする。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	要点	評価	次年度(学期)への主な課題・改善方策
国語	〈現代文分野〉基礎的な読解力の定着を図るとともに、豊かな語彙・知識を習得し、日本語を通じ、情報読解力・情報組織力の涵養を主体的に図る。 〈古典分野〉日本の伝統的文化に関する知識、感性の基礎を形成する古典的教養を身につけ、古典を読解し、自らの生き方を見つめるきっかけにする姿勢を身につける。	生徒の習熟度に適した教材を精選するとともに、指導技術の向上と工夫を図る。		A	習熟度確認の方法を工夫し、学習内容の定着との密接化を図る。他教科、学年、併設中学校との連携を強化し、学習内容定着の効率化を図る。1年次から学年とも連携し、読書習慣の確立・発展を継続的に図っていく。
		基礎学力定着のために、確認テストを頻繁に実施し、評価する。		A	
		日本語に対する主体的態度を育むために、適切な助言により効果的な学習活動を促すとともに、段階的に主体化を図る。		B	
		宿題・課題等を課し、自宅学習の充実を図る。		A	
		理解度・定着度に応じて、放課後や長期休業中を利用して補習を実施する。		A	
		3年の1学期までに教科書を終了し、以降は大学受験頻出問題などの演習・解説を実施し応用力を養成する。		A	
		図書を紹介し、読書に親しませる。		B	
地歴・公民	〈地歴〉資料集等を用い、地理的条件等と関連づけて、日本や世界の歴史を総合的に考察させ、歴史的思考力を養う。 〈公民〉現代における政治・経済・国際関係などについて客観的に理解させ、それらに関する諸問題を主体的に考察させて、知的好奇心にあふれた良識ある人材の育成を図る。	教材の精選と授業内容の充実を図る。		A	習熟度確認の方法について、より良いものをめざし工夫する。教科内で科目間の連携を図り、限られた時間数を効率よく充実したものにしていく。科目内で連携し、生徒の知的好奇心の喚起、物事の本質的理解を図る。新学力観に対応するため、グループワークやプロジェクターを使った視聴覚授業などを導入中でありさらに充実させる。
		単なる知識の教授だけではなく、その背景等についても理解させるように工夫する。		A	
		2年次に基礎歴史用語のテストを実施(日本史B・世界史B)し、合格するまで何度も繰り返し学習させる。		B	
		3年の10月までに教科書を終了し、以降は大学受験頻出問題などの演習・解説を実施し応用力を養成する。		B	
		授業の単元ごとに小テスト等を行い理解度および定着度を確認する。		B	
		理解度・定着度に応じて、放課後や長期休業中を利用して補習を実施する。		A	
		AL型の授業を取り入れ、主体的、協働的に課題を解決する力を養成する。		A	
数学	綿密な授業計画のもとに基礎学力の定着と応用力の向上、家庭学習の充実を図る。	教材の精選と授業内容の充実を図る。		A	教材の更なる精選と授業内容の充実を図る。シラバスを整理し、生徒の現状と大学受験に合わせた授業計画を練る。基本的事項のより一層の定着と応用力の伸長を図る。また、学力の3要素を育んでいくためにAL型の授業を取り入れたり、ICT機器の活用を図っていく。
		授業の単元ごとに小テスト等を行い理解度および定着度を確認する。		A	
		宿題・課題等を課し、自宅学習の充実を図る。		A	
		基礎事項の理解を徹底させるとともに、問題演習を十分に行う。		A	
		理解度・定着度に応じて、放課後や長期休業中を利用して補習を実施する。		B	
		3年の10月までに教科書を終了し、以降は大学受験頻出問題などの演習・解説を実施し応用力を養成する。		A	
		AL型の授業を取り入れ、主体的、協働的に課題を解決する力を養成する。		A	
理科	自然や科学に対する関心や探究心を高め、論理的に考える力を育成する。自然の事象・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する基礎学力を充実させる。	単なる知識だけの教授だけではなく、その背景にある原理・原則も理解させるように工夫する。		A	実験・観察を更に充実させ、生徒の興味・探究心を喚起する教材を研究する。
		教材・教具の工夫や実験・観察を実施し、授業内容の理解に助けるよう工夫する。		A	
		授業内容の小テスト等を行い理解度および定着度を確認する。		A	
		基礎事項の理解を徹底させるとともに、問題演習を十分に行う。		A	
		理解度・定着度に応じて、放課後や長期休業中を利用して補習を実施する。		B	
		3年の10月までに教科書を終了し、以降は大学受験頻出問題などの演習・解説を実施し応用力を養成する。		A	
芸術	生徒個人の創造性を引き出すとともに芸術の楽しさ、こころ豊かに生きることの大切さを伝える。	授業において可能な限り、個別指導を取り入れる。		A	実技の授業による感受性の育成を図る。音、絵画、書という芸術分野に触れさせ興味をいだかせる。
		実習内容の精選を図り、教材と指導方法の工夫と改善を図る。		A	
保健体育	心と体を鍛え、集団において自己の役割を認識させる。保健の基礎知識を習得させ、生きる知識をばくくむ。体育においては、体力向上と共に怪我等の防止に努める。	体育の個人技量の向上と集団行動において他人を思いやる心を育成する。	個人技量向上、思いやり	A	生涯にわたって積極的に体を動かそうとする資質とその能力を育む。保健学習では、将来の健康なライフスタイルを確立させるため、青年期の正しい生活習慣の維持が重要であることを理解させる。代表的な生活習慣病である癌に対し、原因・予防・治療について学習指導する。
		保健の授業では視聴覚教材を積極的に取り入れ、興味関心を喚起する。	保健授業視聴覚教材活用	A	
		ケガ、事故防止のために準備運動や安全管理に努め、常に気を配る。	事故防止、安全管理	A	
		スポーツへの多様なかわり方を理解させ、身近な経験とリンクさせた考え方を身につける。		A	

英語	将来、国際社会に通用する英語運用能力を身に付けられるように思考力、表現力、発信力の向上を図る。 4技能5領域の向上に資する環境を整える。基本語彙の定着を図ると共に、基礎的な文法・語法力の定着を図る。	基本単語、基礎文法・語彙に関するテストを実施し、合格するまで何度も繰り返し学習させる。		A	A	3学年次までに意見を論理的に伝える英語表現＝英作文ができるようになるために、読解・英作文を基盤とした4技能の向上を図る。 シラバスを軸に指導者間の指導内容に関する相互研修を充実させ、生徒への指導の充実を図る。 Speaking の機会を充実させるため、ICクラスの充実、アプリケーションを使ったOutput機会のさらなる提供を行う。
		4技能を測定する資格・検定試験対策に力を入れる。		A		
		予習・復習等の確認をとおり、自宅学習の定着を図る。		B		
		英語に親しめるサイドリーダーを活用し、読解力の基礎の育成を図る。		A		
		まとまりのある英作文が書ける力を養えるような授業・課題配信を実施する。		A		
		ICTツールやアプリを利用し、校内外で英語で発話・発表する機会を提供する。		B		
		理解度・定着度に応じて、放課後や長期休業中を利用して特別講義を実施する。		A		
家庭	「自己実現を志向して生活を主体的に創造する力」を身につけることを目指す。	大学入試に対応できる長文読解力や英作文等の指導を充実する。		A	A	青年期の自分を客観的にとらえ、自立に向かって主体的に実践できる能力を育成する。 民法改正に向けて必要な知識を身につけさせる。18歳成人が始まるおいての注意点・消費者問題の現状と複雑化・多様化している支払い方法について理解させる。
		AL型の授業を取り入れ、主体的、協働的に課題を解決する力を養成する。		B		
		実習内容の精選を図り、教材と指導方法の工夫と改善を図る。		A		
		被服実習では道具の共有を避け、感染対策に配慮しながら授業にのぞませる。		B		
情報	①情報社会の中において必要なコミュニケーション能力を身に付ける。 ②プレゼンテーション能力の向上を図る。 ③個人情報の取り扱いなどの情報モラルへの知識・理解を深める。 ④プログラミングのスキルアップを図る。	男女が相互に協力して家庭を築くことの重要性について認識させる。		A	A	情報化社会と言われている中で、情報メディアを使いこなせる以前に、根底にあるモラルやマナーの取得を目指し、社会に参画する意義を理解させる。
		日本の高齢化が急速に進んでいる現状とその背景および問題を考える力を養成する。		A		
		アナログとデジタルを理解し、さまざまなものがデジタル化されていることを踏まえ、社会の動きを深める		A		
		ネット社会における、情報モラルを十分に習得し、ネット社会の現状やネット犯罪の防止を図る。		A		
		グループごとにテーマに沿って話し合いをさせ、コミュニケーション能力を養う		B		
		情報を伝達する際に妨げとなるものを理解し、円滑なコミュニケーションがとれる手法を身に付ける。		A		
		プレゼンテーション実施と共に聞き手側にもまわり、相互の理解を深める。		A		
総務課	学校行事調整と諸調査、学校要覧、公文書管理等を行う。	プログラミング実習を通じ論理的思考力を身に付ける。		A	A	学校運営をより円滑にするために毎年、改善点を明確にして次年度に反映させている。
		年間行事計画立案と円滑な実施が可能となるように毎月各分掌と連絡調整を図る。	年間行事計画立案・調整	A		
		茨城県私学振興室関連の諸調査及び回答文書作成を正確かつ迅速に行う。	諸調査、回答文書作成	A		
	学校要覧作成のとりまとめ業務全般を行う。	学校要覧作成	A			
	表簿類の手配や印刷室の管理、事務用品の管理等を行う。	出席簿、学級日誌、教務手帳、指導要録等の発注手配を教務と連携して行う。	出席簿、学級日誌等の手配	A		
	印刷室環境美化に努め、印刷用紙の在庫管理や発注を行う。	印刷室管理、用紙発注	A			
入学式、卒業式等の式典の総括を行う。	筆記用具やファイル、その他事務用品全般の管理及び発注を行う。	筆記用具、事務用品管理	A			
	入学式、進級式等の式典関係の運営をとりまとめる。	式典関係とりまとめ	A			
	父母の会役員及び来賓者への連絡や対応を渉外課と協力してとりまとめる。	PTA総会対策	A			
施設環境課	教育施設全般の管理にあたる。	全体行事全般について各分掌間との連携を図り円滑に運営できるよう努める。	行事分掌間連絡調整	A	A	東日本大震災以降、防災に関する意識がより高まってきた。避難訓練による避難経路の徹底ばかりでなく、HRを通じて災害が発生した時の対応を生徒に対して、さらに強い意識付けが必要になってくる。また、避難訓練時に、経路の確認ばかりでなく、消火器の使い方や脱出用の滑り台の使い方も合わせて実施できるように検討する必要がある。
		机、椅子、教卓、教壇、黒板、掲示板などの教室備品の管理と整理を行う。	教室備品管理の徹底	A		
		校内外の清掃活動の徹底と学校環境の整備・美化に努める。	校内環境美化	A		
	清掃用具の管理や不足分の調達、その他必要な物品等の購入を検討する。	清掃用具管理	A			
	年間2回の避難訓練の計画を立案し、実行する。	避難訓練	A			
	各種警報装置や防火管理設備の点検を定期的に行い万が一に備える。	警報、防火設備点検	A			
	照明器具の省エネに努めると同時にエアコンフィルターの清掃を定期的に行う。	省エネ対策	A			
	各教室やトイレ、特別教室などの常日頃から整理整頓を徹底させる。	清掃状況点検	A			
	各教室の机や椅子、その他不具合のある備品の交換や修理を計画的に行う。	教室備品修理交換手配	A			
学校見学会、本校入試会場準備の際の清掃の指示及び最終確認作業。		A				
見学会、入試会場準備						

渉外課	父母の会総会や父母の会各支部活動の活性化。	父母の会総会の書面決議の資料作成や学級懇談会への保護者の出席増加を呼びかける。	父母の会総会参加呼びかけ	A	A	父母の会・後援会とも、会長を中心に、それぞれの行事のさらなる充実を目指し、生徒の健全なる育成を支援する。対外活動という役割を認識して、外部団体との連携を深める。同窓会については会長を中心に自主的な活動があり今後も緊密な連携をとっていく。
	父母の会役員会や後援会会議等の補助	父母の会各支部総会の書面決議のための資料作成や講演内容の検討に努める。	父母の会支部総会呼びかけ	A		
	父母の会、同窓会広報活動、募金活動など	父母の会正副会長会議や後援会等の事前準備及び会議運営の補助に努める。	役員会、諸会議準備・補助	A		
		全国私立中高保連や父母の会関連諸会議への協力や出張補助に努める。	高P連、出張補助	A		
入試広報課	全員四年制大学への進学を前提に生徒募集を行う。	全員四年生大学への進学を前提とした生徒募集活動を展開する。	全員四年制大学進学PR	A	A	学校案内、説明会・見学会資料の効果的な活用とプレゼンテーションによる短い時間でインパクトのあるPRを工夫する。グラフや図表、映像・画像を駆使し、わかりやすく印象に残る企画を盛り込む。とくに中学生を引きつける内容を再吟味する。また、過去の出願状況を分析し、幅広く本校への理解を深めてもらう様、各地域において数多くの説明会等を行う。さらに、ホームページの充実と更新のスピード化にも重点を置き、幅広くPRを展開していく。
		文武両道を基本とした学校生活を紹介し意欲あふれる生徒の獲得を目指す。	学習第一主義	A		
		特別講座、補習体制、図書館夜間開放等の学習環境の充実を訴える。	特講、補習、図書館夜間開放	A		
	グローバル社会、高度情報化社会に対応できる人材を育成するため、基礎学力の定着はもちろん、ICT教育の積極的活用など、独自の教育プログラムを展開しているといった評価を得る広報活動をする。	生徒一人ひとりの目標達成のための二者面談や日頃の親身な学習支援を紹介する。	個々の目標達成の支援	A	A	
		不合格ノートなどにより、定期試験成績不振者のきめ細かなサポート体制など面倒みの良さをアピールする。	成績不振者対策ノート	A		
		習熟度別クラス編成や文系・理系の目標大学別授業内容などを紹介する。		A		
		プレゼン能力、論理的思考力を養うために自分プレゼン、ビブリオバトルなどに取り組んでいる事を紹介する。		A		
		授業、アクティブラーニング、探求の時間など、あらゆる場面でICT機器の活用を意識した教育活動が行われていることを紹介する。	習熟度別クラス編成	A		
		オンライン英会話・グローバルスタディーズプログラムなど「グローバル化に対応できる人材育成」に積極的に取り組んでいることを紹介する。		A		
教務課	授業時間の確保に努める。	年休出張等は事前に変更し、突発休は当日授業補填を100%確実にを行う。	突発対応100%	A	A	大学入試を重視した、カリキュラムの更なる改善に努める。定期試験問題の充実化。教員の勤務条件を更に公平化し、学習活動の活性化に努める。基礎学力の向上に向けての全体的な取り組みを引き続き実施していく。
		毎年、学校行事の見直しを図り、出来る限り授業時間の確保に努める。	授業時間の確保	A		
		生徒及び教員にとって、能率的で公平な時間割編成を行うよう努力する。	時間割編成の配慮	B		
	適切な教育課程の編成とシラバスの完成に努める。	内進及び外進の文系・理系のそれぞれの学力に応じた教育課程を編成する。	教育課程編成	A		
		中高6カ年(中高一貫コース)と高校3カ年(外進コース)の各シラバスを編成する。	シラバス作成	B		
		生徒の学力に応じた教材とその進度及び進度計画を毎年見直すことに努める。	進度・深度計画調整	A		
教科による研修の充実を図り、授業力の向上に努める。	教科会議を中心に各教科内で授業内容の綿密な打合せを実施する。	教科会議との連携	B	A		
	定期試験や模試結果より、授業内容の改善について主任会で検討する。	主任会議運営	A			
	教科ごとに研修を行い、授業方法の改善をこころがける機会を与える。	フレッシュマン研修制度	A			
図書館課	情報センターとして、入試やニュースなどの資料の充実を図る。	大学受験情報や入試対策の参考資料の充実を図る。	大学受験過去問管理	A	B	学習センターの役割として夜間の開放を実施し、生徒に学習環境を提供した。朝図書館、放課後の開放を行い、生徒たちにとって有意義な読書と学びの場として機能している。今後より一層自学自習の場・探究活動の拠点としての機能を充実させたい。生徒・教員の要望に対し蔵書の充実にも努めているが、更なる工夫に努めていきたい。ビブリオバトルについてはクラスでの実施、コースごとのビブリオバトル大会などのイベントも企画され、学校内で広く浸透してきたとともに生徒たちが意欲的に取り組み、読書推進できるよう更に発展させていきたい。
		一般教養の習得や入試対策として、新聞の自由閲覧や保管管理業務を行う。	新聞管理	A		
		小論対策や志望動機理由の参考になるような図書の実施を図る。	小論対策	A		
	読書、鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	新刊書の中から、生徒に是非読ませたい本を教員が選択し、購入に努める。	新刊書の購入手配	B	A	
		生徒から購入希望本のリクエストを募集し、可能な限り購入に努める。	リクエスト本	A		
		ビブリオバトルの実施により読書への意欲・他者受容力を養う。	図書配置、管理	A		
図書館を利用した学習習慣の確立を目指す。	放課後図書館を開放し自学自習の場とする。	朝学習	A	A		
	図書館内では私語を禁じ、黙々と集中して勉強する態度を育成する。	図書館内マナー指導	A			
	探究活動の拠点として資料の充実を図る。		B			
学習指導課	放課後の特講授業の年間計画の作成。	各学年のカリキュラムに応じ、放課後特講授業を計画する際の調整役を行う。	特講授業編成	A	A	実力試験・模擬試験の成績を通じ過年度比較を行い、教科毎に何を取り組んでいけばよいのかを提言できるようなシステムを構築していく。
		年間を通して特講の実施状況や回数、内容等の記録を統括する。	特講授業実施状況把握	A		
		定期試験や模擬試験の結果を分析し、特講内容について随時各担当者と相談する。	定期、模試分析と対応	B		
	夏期休業期間中の特講授業や補習授業の計画・立案。	夏期休業期間中の前期、後期の特講授業の各学年間の調整を行う。	夏休み特講調整	A	A	校内ICTの活用とAL型授業の普及に努め、よりよい学習体制を構築する。実力試験の有効活用と電子化について具体的に対策していく。
		夏休み中の各学年行事や野球応援などに臨機応変に対応できる体制を整える。	夏休み特講臨時対応	B		
新入生のための指導計画を立案する。	新入生のための事前指導計画や教材内容の選定など調整を行う。	新入生事前指導	B	A		
	入校確認日の際には、クラス分け試験の準備や教員役割分担などを作成する。	新入生クラス分試験	A			

ICT教育課	授業を充実させるためにICT環境を整備する。	ICTトレーニングを実施する		B	B	校内のICT環境を整備するために、教職員の意見を聞き、使いやすい環境を整える努力しなければならない。
		ICTの活用を促進する		A		
		生徒向けのChromebookを整備する		A		
		ICT環境改善のために導入するソフトウェア・アプリの検討をする		B		
		教室に電子黒板機能付きプロジェクターを整備する		A		
生徒指導課	規律ある落ち着いた学校の雰囲気作り	学校生活に不要な物品に関する生徒の意識の向上を促す。	学校生活全般に対する意識の向上	A	B	個人の人格を尊重し個性の伸長と社会の一員としての資質や態度を高めることを促す。望ましい人間関係の育成を目指し、健康的な生活の習慣を身につけさせる。
		授業開始のベルが鳴る前に着席する「ベル着」や授業に集中する姿勢の指導徹底を図る。	ベル着、授業に集中する姿勢	B		
		全員皆勤を目標に毎日学校に登校し、勉強に取り組む姿勢を指導徹底する。	皆勤・精勤の奨励	B		
	父母の会との連携を図り、問題解決にあたる。	父母の会と連携し、各支部単位で各地区の祭巡回やスクールバス指導などを展開する。	学外での生徒指導体制の充実	A	A	
		生徒指導委員会、各学年検討委員会等で学校との連携を図る。	各種検討委員会	A		
		父母の会各支部総会での生徒指導関連の情報交換会や相談会を実施する。	情報交換会、相談会の実施	B		
	心の教育の充実	生徒会役員と連携し、「あいさつ運動」を展開する。	あいさつ運動の展開	A	A	
		社会のルールを守ることや、他人への思いやりの大切さを醸成する。	社会規範意識の醸成・向上	A		
		消火活動や事故防止活動、その他いわゆる『善行』に対する意識の高揚を促す。	善行の意識高揚	B		
特別活動課	生徒会活動の活性化を図る。	生徒会役員が企画運営する学校行事に関する支援や工夫をアドバイスする。	生徒会活動の支援	A	A	生徒会役員や各実行委員のより一層の自主性を養えるような指導をする。
		生徒会予算編成・執行に関する業務を正確・迅速に行えるよう支援する。	予算編成・執行業務	A		
		生徒会誌「常総」の編集を支援することで伝統とプライドを持たせる。	生徒会誌編集とプライド	B		
		生徒会からの意見を元に、生徒会役員生徒が教員と適宜話し合い、より良い学校づくりに努める。	生徒会役員生徒との連携	A		
	部活動の活性化を図る。	各部活動の予算を調整し、円滑な活動ができるように予算を配分する。	部活動予算案の適正配分	A	A	
		各部活動実績を毎月全校集会で発表したり、C棟に掲示するなど広報に努める。	部活動実績広報活動	A		
		野球応援等に積極的に参加するように呼びかけることで母校愛を高める。	野球応援と母校愛	A		
	新入生歓迎会、常友祭、芸術鑑賞会等の諸行事を統括する。	新入生歓迎会で生徒会や部活動を紹介し、本校への帰属意識を高める。	新入生歓迎会の運営	A	A	
		常友祭準備から後片付けまで一連の運営を支援し創意工夫の力を育てる。	常友祭と創意工夫の力	A		
	外部団体による芸術鑑賞会の企画立案を計画的に取り組む。	芸術鑑賞会の企画運営	A			
保健相談課	保健衛生管理に努める。	定期的にトイレや流しの手指消毒液・石鹸の有無を確認し、衛生管理に努める。	衛生管理の徹底	A	A	自らの心身の健康について主体的に考え、生涯にわたって心身共に健康な生活を実践できる生徒を育成する。自他の生命の大切さを理解し、思いやりをもった行動が出来る生徒を育成する。
		教室内の換気、手洗い・うがい・手指消毒を励行し、感染症予防に努める。	換気、うがい、手洗いの励行	A		
		施設環境課と連携し、教室や廊下の清掃を徹底し、清潔な環境を保持する。	清掃の徹底、清潔な環境保持	A		
	生徒の健康管理	定期検診やその他体育的行事の際に保健調査を行い、健康に留意させる。	定期検診、問診等の実施	A	A	
		生徒及び保護者に「保健だより」を定期的に発行し、注意を促す。	保健だよりの発行	A		
		掲示物を利用し、さまざまな病気や注意すべき事柄に興味・関心をもたせ、自己管理能力を高められるよう努める。	保健室前掲示	A		
	教育相談の実施	体の病気や精神的な悩みについて相談しやすい環境を整える。	悩み相談	A	A	
		心身のバランスが不安定な生徒を早期に発見し、学年主任・担任等と連携して、的確な対応に努める。	担任、学年主任等との連携	A		
		SCと連携し、教育相談の充実を図り、必要に応じて専門医へつなげたり、適切なアドバイスを行うように努める。	専門医との相談	A		
進路指導課	高い志を持つ一人一人に対応した進路指導の充実を図る。	将来について考えさせる進路講演会や学年行事等への積極的参加を支援する。	進路講演会支援	A	A	資料配布・整備、講演会・行事等を通じて、進路に関する情報は十分に発信しているが、一人一人の生徒が早めに自己の進路に対する自覚を持ち、模擬試験などにも主体的に取り組むよう促す工夫を、学年と連携しながら考える必要がある。
		将来を真剣に考えるための資料や図書類を充実させ自由に閲覧できるようにする。	進路関連資料充実	A		
		「進路だより」を定期的に配布し、教員及び生徒間で共通理解を図る。	進路だより発行	A		
	授業を中心に主体的な学習習慣を確立させ、学力向上を図る。	授業が大切であることを認識させるために、的確な進路情報を発信する。	授業第一主義と進路情報	A		
		学年と連携し、生徒の家庭学習実態を把握し、担任の個別指導に役立てる。	学習調査	A		
		学年と全国模試の年間実施時期及び回数等を調整し、学力向上を支援する。	全国模試実施回数調整	B		
進路情報の生徒・保護者への提供に努める。	生徒が志望校を考える資料として『大学合格体験記』を三者面談時に配布する。	大学合格体験記の活用	A	A		
	父母の会総会、学年別進路講演会、父母の会支部活動等において情報を提供する。	PTA総会、その他情報提供	B			

キャリアデザイン課	体験学習や講演会などを通じ、キャリアデザインの概念を持たせるとともに、進路決定への足掛かりとし、実際の入試へも役立てる。	進路講演会を適切なタイミングで企画立案し、実施する。		B	A	次年度は、各クラスの進路委員を積極的に動かし、生徒主体の活動を行っていく。
		大学や企業からの体験講座、実習などを周知し参加を促す。		A		
		東大ライブ授業などを通じ、先端的な学問への興味関心を発揚する。		A		
		看護体験、医療系の実習参加を取りまとめ、体験学習の一助とする。		A		
情報処理課	個人情報保護法遵守と校内の情報処理の推進役を果たす。	校内LAN、インターネット環境の保守管理に努める。	校内LAN、ネット関係保守管理	A	B	個人情報をはじめとする情報の管理およびPC利用環境の向上に努める。特に、個人情報の保護について、教職員の意識の高揚を図る。
		学校関連のデータや個人情報の機密保持に細心の注意を払う。	情報機密保持	B		
		個人情報保護の法的知識やデータの扱い方等について周知徹底を図る。	情報処理の周知徹底	B		
	教職員の意見に耳を傾け、使いやすいOA環境を構築する。	定期試験成績処理システムの運用を円滑に行う。	定期試験成績処理システム	A	B	
		調査書・生徒指導要録の電子化等のシステムの運用を図る。	生徒検索システム他	B		
			大学模試過去問の公開			
入試業務及び在校生の個人情報管理	入学試験受験者名簿の作成や事務手続きに必要な個人情報を取りまとめる。	入試個人データの管理	A	B		
	新入生及び在校生の住所や連絡先などの個人情報を一括して管理する。	在校生住所、連絡先の管理	B			
	進路指導課や同窓会と連携し大学進学先や現住所の把握に努める。	進学先、現住所等の管理	B			
情報システム課	使いやすく安全なICT環境の構築	情報処理課と連携し、校内(教室)のネットワーク環境の整備を行う。		A	A	一人一台環境を含めたGIGAスクールへの対応を早期に実現する。
		生徒用端末の選定と保守管理を行う。		A		
	情報リテラシーの向上	アカウントの管理とアプリケーションの選定を行う。		A		
		ICT教育課と連携し、ICT機器の活用、および、セキュリティへの意識を高める。		B		
高校1年	「方正謹厳」を学年目標に、学習指導、生活指導、進路指導面の指導を充実させる。	授業に対する真剣な取り組み姿勢を身につけさせる。	真剣な授業態度の育成	A	A	職業を見据えた適切な進路情報の提示を行う。 学習時間確保と学習環境整備に関して、保護者と一層の協力関係を築く。 社会に対する貢献の意識を育てる。
		予習・授業・復習の学習サイクルを習慣化させる。	学習サイクルの習慣化	A		
		高校生らしい服装や頭髪指導を含め基本的な生活習慣を身につけさせる。	基本的な生活習慣の定着	B		
		規則や時間遵守、ボランティア奨励、安全教育など生活指導を充実させる。	規則、ボランティア、安全教育	B		
		LHRIにおける計画的な進路指導の展開、職業観の育成を図る。	進路指導、職業観	A		
		現役合格を目指した大学入試対策の情報提供や進路説明会の開催を行う。	現役合格、進路説明会	B		
高校2年	「克己」を学年目標に、学習指導、生活指導、進路指導面の指導を充実させる。	自主的な学習態度の育成と予習・授業・復習の学習サイクルの確立を図る。	自学自習、学習サイクル確立	A	A	生徒に向けて生活面の話をしっかり聞かせ規範意識を高める。また携帯等の使い方の指導を徹底する。 進路指導におけるより綿密な計画を図る。
		朝自習、特講、学習合宿、図書館夜間利用等への積極的参加を促す。	意欲的な学習態度の育成	A		
		高校生らしい服装や頭髪指導を含め基本的な生活習慣を身につけさせる。	基本的な生活習慣の定着	A		
		規則や時間遵守、ボランティア奨励、安全教育など生活指導を充実させる。	規則、ボランティア、安全教育	B		
		LHRIにおける計画的な進路指導の展開、職業観の育成を図る。	進路指導、職業観	B		
		二者・三者面談の実施と3年次コース選択のための進路指導の充実を図る。	面談、3年次コース選択の指導	A		
高校3年	「飛躍」を学年目標に、学習・生活両面において高校生活最後の仕上げを行わせ、進路目標を実現する。	大学入試を見据えた授業を展開し、常に緊張感ある授業を心がける。	大学入試のための授業	A	A	国公立学校推薦型入試の早期意識付けが必要だと感じた。また、最後まで自分の現実を受け入れさせたいという高い目標接待が志望校合格には必須と感じた。最後まで休まずに学校に登校する意識付けを、入試前から話をし続ける必要がある。定期的なコースごとの集会が必要出る。
		朝自習、図書館夜間利用などを徹底し、学習時間を最大限確保させる。	学習時間最大限確保	B		
		生活のリズムを確立させ、規範意識の確立と時間遵守の徹底を図る。	生活リズム規範意識時間厳守	A		
		高校生らしい服装や頭髪指導を含め基本的な生活習慣を身につけさせる。	基本的な生活習慣の定着	B		
		LHRIにおける計画的な進路指導の展開、職業観の育成を図る。	進路指導、職業観	A		
		オープンキャンパスへの参加、進路指導室利用や進路相談や模擬面接指導の徹底。	オープンキャンパス、進路・面接指導	A		

中高一貫 コース	ICTを上手く活用し、授業時間内での学習の到達を目指し、学習時間の自己管理や学習内容の俯瞰にも取り組む。また、与えられた課題に留まらず、主体的に学習内容を決定、課題の遂行をする習慣をつける。とくに英語4技能の向上に努める。プレゼンテーション資料の作成や発表を行う中で、自ら問題を発見し、設定し、解決する能力を養う。またそれらを他者に発信する能力を育てる。学校行事に積極的に取り組み、多様な学校生活の構築を目指す。学校に対する帰属意識を高め、健康に留意し健全な心身を養う。	ひとつひとつの授業に準備をして真摯に取り組ませる。		A	A	社会教育として、様々な職業に携わる人々の講演を聞かせ、職業意識や進学意識を喚起させる。
		学校行事に積極的に取り組ませる。		A		
		学習時間の自己管理を行わせる。		B		
		主体的に学習内容を設定させる。		B		
		プレゼンテーション資料の作成、発表を行わせる。		A		
		英語4技能の向上に努める。		A		
		classiというツールを使い学習時間の入力を促し、自分の生活をプランニングできる人材を育てる。		B		
特進選抜 コース	国公立大学進学を目標に、学校内における生活面・学習面において規範的な存在となることを目指す。将来的には自らの可能性だけを追求するのではなく、社会的立場や他者に対する貢献する意識を持たせることを目標とする。	学校規範に則り、日々の学校生活において、規範的な活動をさせる。		A	A	進路計画・探究計画を始め、3カ年の各種指導におけるさらに詳細な計画を作成し、実践から改善に繋げる。一人でも多くの生徒が学びに対する意識が良くなるよう指導の日々指導の研鑽を積む。
		大学受験から逆算して、個々に必要な学習習慣を定着させる。		A		
		LHR・探究活動等を通し、自己理解・他者理解に努め、社会貢献心を養う。		A		
		具体的な進路意識を持たせ、国公立大学進学を目指し日々の学びが主体的活動となるよう導く。		B		
		特講などの課外学習を利用し、受験に必要な学力を確保する。		A		
進学選抜 コース プログレス	どのような世界になろうとも対応できる人材を育成することを目的に『チームで協働できる人』『どんどんチャレンジする人』『自分の意見をしっかりと伝える人』を育む。その目的達成に向け、基礎基本を大切にされた教科指導、学習中心の特別講座に加え、計画的な探究活動を実施している。また、生活指導も重要と考え、日々の学習時間や行事ごとの振り返りを実践している。	classiというツールを使い学習時間の入力を促し、自分の生活をプランニングできる人材を育てる。		A	A	3年間で計画的な探究活動を通じて希望進路を見出す。また、2学年の探究活動を基盤に、志望理由書へと昇華させ希望進路の実現を達成させていく。志望理由書への昇華にむけサポートとして外部講師を招聘する。サポート期間は高校2学年10月～高校3学年9月までの1年間を予定している。
		行事や探究活動内容をGoogleスプレッドシートにまとめさせることで振り返りを行わせ、JOSO未来Core Skillの醸成に努める。		B		
		特別講座ではスタディサプリを活用し、苦手分野の補填を中心に基礎基本の定着に努める。		A		
		中学校時代および高校の日々の学習習慣や生活習慣をデータとして取り、自分プレゼンを行う。		A		
		2学年の探究は一人一テーマで1年間かけて行う。そのサポートに大学生大学院生が入る。		A		
		総合型選抜に向けたサポートを本格化させた。外部講師を週1回招聘し、小論文指導、志望理由書指導、面接指導などトータルサポートを実施している。		A		
進学選抜 コース フロンティア	学業とともにいろいろな課外活動を通して豊かな人間性を身につけつつ、幅広い視野と見識を身につける。探究の授業を通して学問探究・地域探究を行い、地域企業と連携して、キャリア教育の充実を図る。	部活動の運営とクラスルームの円滑な運営両輪をしっかりと融合させる。		A	A	放課後の特講を利用して英検の取得やG-TECスコアの向上を目指す。部活動に対する成績向上の喚起を促すとともに研修機会を設ける。これまでのやり方に固執せず、新しい意見を取り入れフロンティアコースの隆盛を図る。
		部活動をやっていない生徒達に対する特講での補習の推進。		A		
		強化部以外の部活動に対する成績向上のためのバックアップ体制の確立。		B		
		幅広い視野と見識を身につけるための著名人講演会の実施。		A		
		学問探究や地域探究における教材の充実。		A		
		豊かな人間性を身につけさせるための研修と教員面談をする。		A		
大学進学における進路指導とそれに対する教員間の連携。		B				

令和5年度 常総学院高等学校学校関係者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	A 十分達成している	クラス毎の皆勤・精勤率も高位安定。小テスト等による単元理解の確認および英単語をはじめとした科目ハードル試験等全員が合格しており、大学現役進学率も89%と安定。特に、東京大学2名、筑波大学11名など国公立大学に99名、難関私立大学に128名合格。また、医学部医学科へは10名合格しており、単年度の重点目標は達成できているととらえる。
	<input checked="" type="radio"/> B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
2. 学校の自己評価表の具体的目標 及び具体的方策の達成状況について	<input checked="" type="radio"/> A 十分達成している	各教科・学年・分掌ともに細かく具体的な目標を掲げて、校務を遂行している様子がうかがえる。今後とも継続して行ってほしい。また、一部達成が十分でない部門が見られるが、概ね成果が見られる。達成が不十分な部門に関しては、次年度以降引き続き努力してもらいたい。
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
3. 次年度への主な課題の把握について	<input checked="" type="radio"/> A 十分把握している	各教科・学年・分掌ともに十分認識していると思われるので、今年度以上、目標達成に向けて一層の努力を期待する。
	B どちらかといえば把握している	
	C どちらかといえば把握していない	
	D 把握していない	
4. 改善方策の策定状況について	<input checked="" type="radio"/> A 策定できている	現状を掌握しながら改善策を講じていることがわかる。今後とも、各項目においてより具体性を持った改善策を講じてほしい。
	B どちらかといえば策定できている	
	C どちらかといえば策定できていない	
	D 策定できていない	

※「学校関係者評価」は、学校の自己評価結果をふまえて行うこととします。学校関係者評価における評価者とは、各学校の生徒の保護者や、各学校の教職員を除いた学校と直接の関係のある者及び大学教員等の学校と直接の関係を有しない有識者とし、学校評議員も評価者に含まれます。

令和5年度 常総学院高等学校第三者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	A 十分達成している	遅刻・早退者もほとんど見かけず、挨拶、服装もしっかりしており、きめ細やかな指導が行われている様子が伺える。大学現役進学率も89%。部活動面においても、春の高校選抜野球大会(甲子園)および男女バドミントン部・水泳部等の全国大会出場など、関東・全国大会に出場する部活も多く、部活動との両立した進学校として、地元に着定しており更なる発展を期待したい。
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
2. 学校の自己評価表の具体的目標 及び 具体的方策の達成状況について	A 十分達成している	一部達成が十分でない部門が見られるが、概ね成果が見られ、学校の活性化に向けての努力が伺える。達成が不十分な部門に関しては、次年度以降引き続き努力してもらいたい。
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
3. 次年度への主な課題の把握について	A 十分把握している	各教科・学年・校務分掌において、しっかりと現状分析をしていると思われる。今年度以上に課題が達成できるよう期待したい。
	B どちらかといえば把握している	
	C どちらかといえば把握していない	
	D 把握していない	
4. 改善方策の策定状況について	A 策定できている	現状を把握しながら改善策を講じていることがわかる。今後とも、各項目において一層の改善策を講じてほしい。
	B どちらかといえば策定できている	
	C どちらかといえば策定できていない	
	D 策定できていない	